

第1章 平成25年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

当館は、昭和53年(1978)設置以降、山口大学構内が所在する遺跡の調査・研究を行うとともに、収蔵資料の展示・公開、また埋蔵文化財・考古学にかかわる教育活動を行っている。具体的には、展示・情報公開活動として、当館展示室において年度内に3回前後の企画展示を行うこと、各種メディアを用いて遺跡及び収蔵資料の情報を公開すること、教育活動としては年度内に1回の市民対象公開授業を開催すること、そして出張展示やワークショップの開催、講演会等への講師派遣など、学内外の要望に応じた地域連携・生涯学習支援活動を実施することである。

平成25年度は、展示・情報公開活動として、第35回となる企画展『遺跡に見る山口大学の原風景2～古代官衙と地方豪族の誕生～』を開催した。また、県内の大学博物館・図書館が各大学の学術資料や研究成果を展示にて公開する「山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携事業」を継続実施した。その他、当該年度より本学委員会である山口大学所蔵学術資産継承検討委員会の事業成果展『宝山の一角』共催館として、展示室の提供と展示構築・広報支援などを行った。情報公開としては、平成22年度分の年報と広報誌『てらこや埋文』、『平成25年度山口県大学ML連携事業報告書』を刊行した。また、引き続き見島ジーコンボ古墳群の出土資料再調査として第137号墳を対象に実施したが、調査報告書は次年度に持ち越した。社会教育活動に関しては、例年通り農学部附属農場との共催により、第13回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう8－』を開催した。

当年度は、総入館者数は2,037名で前年度比190%の増加、当館初の2千名に達した(表1・2)。山口県大学ML連携特別展開催期間の入館者が少ないが、これは総合図書館増築工事で当館前の道路が封鎖された影響である。次頁より平成25年度の展示・情報公開活動、社会教育活動の概要を報告する。

表1 埋蔵文化財資料館利用者の推移

年度	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25
利用者総数	355	267	191	200	516	142	555	573	913	669	808	1,157	1,228	776	1,333	1,718	1,473	1,072	2,037

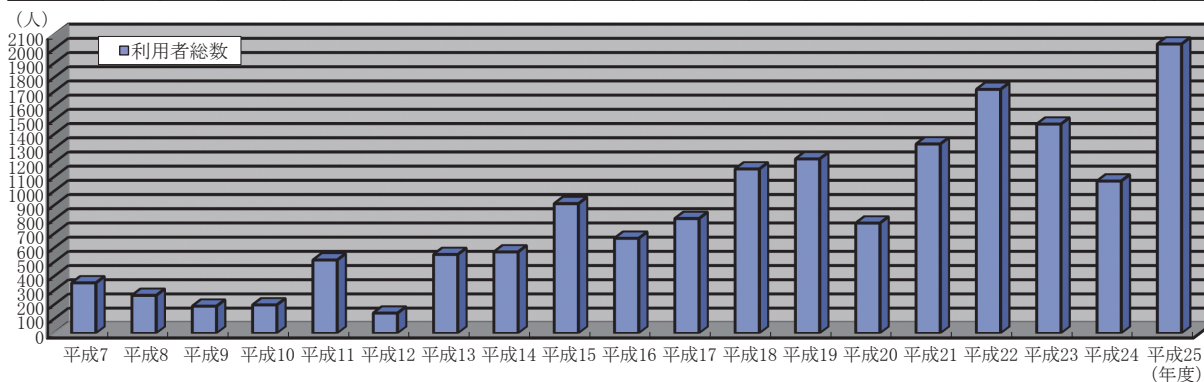


表2 平成25年度月別入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入館者数	261	233	290	64	455	89	93	191	57	56	休館	248

